

発掘調査の概要

西大寺四王堂の調査（平城第342次）

西大寺四王堂の西側放水銃移設にともなう事前調

査を 2002 年 2～3 月に実施しました。調査区は北区 15 m²と南区 2 m²を設けました。北区では奈良時代の四王堂創建時の西北隅の掘立柱穴を検出しました。柱穴は一辺が 2m 以上と巨大です。柱を抜き取った後、ほぼ



四王堂発掘現場(北西から)

重複した位置に礎石を据えた礎石据付穴を確認しました。基壇には平安時代の瓦積み外装が残り、西大寺創建時から平安時代までの瓦のほか、凝灰岩や川原石も用いられています。創建時の建物や基壇の規模を踏襲して、平安時代に礎石建物へと造り替えたと推定されます。創建時の四王堂は過去の調査とあわせると、東西が約 32.5m、ほぼ 11 丈となり、西大寺に伝わる資財帳の記載に一致します。南区では地表下 30cm が地山で、くぼみをいくつか検出したのみです。
(平城宮跡発掘調査部)